

森

水と

2021
8.28|土| →
11.3|水・祝|

※会期中展示替えがあります

アーティストトーク
「森と水と生きる—自然と人間の共生」

9月11日|土| 14:00
講師/山口啓介・須田悦弘・大小島真木 + 松本透(当館館長)
オンライン配信(予定) 参加費無料・申込不要

会場の様子とともに、新しい美術館のポリシーである「自然と人間」について、当館館長をファシリテーターに現代作家の視点をお話いただけます。

担当学芸員によるスライドトーク

- ① 9月20日|月・祝| 「森と水の風景」
- ② 10月 9日|土| 「私たちの風景—映像に見る森と水とそこにある生活」
- ③ 10月16日|土| 「自然と息づくものたち—文化史から見る—」
- ④ 10月23日|土| 「水にまつわる物語」
- ⑤ 10月30日|土| 「描かれた山 信州の山々を中心に」

14:00 - 15:00(受付開始13:00)

講師/担当学芸員

- ①田中正史 ②松井正 ③鈴木幸野 ④木内真由美 ⑤上沢修

会場/レセプションルーム

定員/30名

参加費無料・当日整理券配布(先着順)・手話通訳あり

本展のみどころを、担当学芸員の専門や観点からご紹介いたします。

「全盲の美術鑑賞者」とアートなトーク!

9月19日|日| 10:00 - 12:00

講師/白鳥建二(全盲の美術鑑賞者)
光島貴之(全盲の美術鑑賞者・作家)

会場/展示室1・2・3

定員/8名

参加費無料(要観覧券)・要申込(8月19日～・先着順)

視覚障がい者と一緒に、言葉を用いて展示作品を鑑賞するワークショップです。見える/見えないに関わらず、どなたでもご参加いただけます。

申込方法

予約が必要なイベントは、すべて申込フォームにて受け付けます。当館ホームページ内のイベント情報ページからお申し込みください。先着順のイベントは、定員に達し次第、締切とさせていただきます。イベント詳細については美術館ホームページをご確認ください。

◎車でのアクセス

上信越自動車道「長野I.C.」または「須坂長野東I.C.」から、長野市街及び善光寺を目標に約30分

◎公共交通機関

JR長野駅善光寺口バス乗り場①から、アルピコ交通バス11・16・17で「善光寺北」下車(所要時間約15分)、バス進行方向徒歩5分

一般来館者のための専用の駐車場はございません。公共交通機関、または近隣の駐車場をご利用ください。※併設の東山魁夷館北側の駐車場は、大型バスや障がいのある方など、信州パーキングパーミット制度にて指定された方の専用駐車場です。

新型コロナウイルス感染症等、諸般の事情により、会期等に変更が生じる場合があります。最新情報は美術館ホームページをご覧ください。

NOM 長野県立美術館 (旧 長野県信濃美術館)
Nagano Prefectural Art Museum

〒380-0801 長野市箱清水1-4-4 Tel.026-232-0052 Fax.026-232-0050

子どもアートラボ

9月11日|土|/10月9日|土| 10:00 - 15:00

会場/交流スペース

要申込(詳細は美術館ホームページをご覧ください)

ねんど・絵具・紙などを素材に遊びを通したさまざまな造形体験を提案します。子どもから大人までどなたでもご参加いただけます。

アートをしゃべってみませんか?

9月12日|日|/10月23日|土| 10:00 - 11:00

会場/展示室1・2・3

参加費無料(要観覧券)・要申込(各回1か月前～・先着順)・高校生以上対象

解説を聞くのではなく、作品を見て感じたことをおしゃべりしながら、鑑賞体験を深めるワークショップです。

— 同時開催展情報 —

長野県立美術館名品選 第1期

8月28日|土| → 10月26日|火|

会場/コレクション展示室

料金/本館・東山魁夷館コレクション展共通 一般700(600)円、大学生及び75歳以上500(400)円

※企画展との共通券 一般1500円、大学生及び75歳以上1100円

信州ゆかりの作家や風景が描かれた作品を中心とした取藏品から、選りすぐりの名品を新設されたコレクション展示室にてご紹介いたします。

オープンギャラリー夏季展示・中谷芙二子展

8月27日|金| → 9月14日|火|

会場/オープンギャラリー

入場無料

「ランドスケープ・ミュージアム」を象徴する作品として常設された「霧の彫刻」の制作者であり、日本におけるビデオ・アートの先駆者としても知られる中谷芙二子の活動を紹介します。



クロード・モネ《睡蓮》1907年、アナビビール大山崎山荘美術館蔵

会場/展示室1・2・3
観覧料/一般1,000(900)円
大学生及び75歳以上800(700)円
高校生以下又は18歳未満無料

開館時間/9:00 - 17:00(入館は16:30まで)
毎週水曜日休館 ※11.3は除く

※東山魁夷館およびコレクション展との共通料金 一般1,500円

大学生及び75歳以上1,100円

※()内は20名以上の団体料金

※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方と、付き添い1名は無料

主催=長野県

長野県立美術館

共催=長野県教育委員会

後援=長野市

長野市教育委員会

長野商工会議所

善光寺

長野県芸術文化協会

長野県美術教育研究会

(公財)八十二文化財団

(公財)ながの観光コンベンションビューロー

JR東日本 長野支社

信濃毎日新聞社

NHK長野放送局

SBC信越放送

NBS長野放送

TSBテレビ信州

abn長野朝日放送

FM長野

INC長野ケーブルテレビ

Living in symbiosis with Forests and Water

NOM 長野県立美術館
Nagano Prefectural Art Museum



フェルディナント・ホドラー《木を伐る人》1910年、大原美術館蔵

生



森と水一息づくものたち

今を生きる作家がそれぞれのフィルターを介して見つめる、自然と人間の共生のありかたを探ります。自然とのつながりの証として出現する生き物、科学的な視野や内的なものから立ち現れる自然などを題材にした現代作家の作品から、隆起した海底が山として存在する長野の地で、自然と人間の関係を考えます。



©Rieko Hidaka, Courtesy of Tomio Koyama Gallery 10



撮影/末正真礼生 提供/コバヤシ画廊 11

水景へ一人々とその諸相

人間の生活と切り離せない水にまつわる風景は、古来より多くの美術作品に取り上げられてきました。胸中の「山水」を描く東洋美術の伝統と、西洋美術における「風景」の概念の影響をふまえ、近代以降の日本において生み出された水のある風景と人間の営みに関わる水の存在を題材にした作品を紹介します。



前期展示 7

水の精霊

人間の生命にとって必要不可欠である水は、聖書や神話の世界を表現する際に、象徴的あるいは神聖なものとしてしばしば描かれました。また、水そのものが持つ性質を装飾的・記号的に表現することによって、あらたな想像の世界が生み出されていきます。



前期展示 9

森の幻影

古くから語り継がれる神話や聖書を育む場としての森、芸術家の原風景としての森、作家の内面世界を表出する創造の森など、森林が喚起するイメージはさまざまです。時に生命力に溢れる楽園として、あるいは畏怖や崇敬の対象として描かれる森林は、個人や社会の記憶をも包括するでしょう。



4



5



6

森と水と生きる

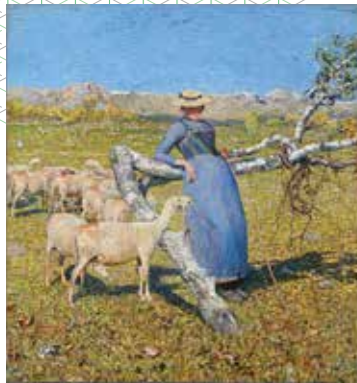
長野県立美術館
グランドオープン記念

わたしたちの暮らしや営みの中で、森や水といった自然はかけがえのない存在です。自然は人間の生活に豊かさをもたらすだけでなく、時にひるがえり脅威となりながら、わたしたちと共にあり続けます。長野県立美術館のグランドオープンを記念する本展では、新しい収集方針の一つである「自然と人間」をテーマに、ありとあらゆる芸術作品に表現された多面的な自然の姿を展覧します。古今東西のアーティストによって見いだされる自然の様相は、实景に基づく写実的なものから、想像力を呼びさます抽象的なもの、個人の感覚や記憶を往還するものなど多岐にわたって、わたしたちの目の前に立ち現れていくでしょう。

本展では、5つの章を通して、絵画や写真、インスタレーションなど、さまざまな方法によって表現された近現代美術の名品を通して、今日のわたしたちと芸術、そして自然との関わりを見つめ直します。

森と山—その姿と暮らし

自らの足で未知の山々を歩き、自身の目を通してその姿をうつしとった岳人画家や山岳写真家の作品、山や森そのものを普遍的な素材として捉える作家による作品をご紹介します。多彩な表情をみせる森や山の姿は、近代から現代にいたるまで多くの作家たちを惹きつけ、その中でたくましく生きる人間の姿もまた題材となりました。



1



2



3



3

- 1 ジョヴァンニ・セガンディーニ《アルプスの真昼》1892年、大原美術館蔵
- 2 吉田博《有明山》1920年、当館蔵
- 3 田淵行男《初冬の浅間 黒斑山中腹より》1940年、田淵行男記念館蔵
- 4 岡本太郎《森の掙》1950年、川崎市岡本太郎美術館蔵
- 5 村山槐多《尿する裸僧》1915年、当館蔵(信濃アッサン館コレクション)
- 6 アンリ・ルソー《エデンの園のエヴァ》1906-1910年頃、ボーラ美術館蔵
- 7 小川芋銭《江村六月、雲嶺煙水》1935年、茨城県近代美術館蔵
- 8 ジョン・ウイリアム・ウォーターハウス《フローラ》1914年頃、郡山市立美術館蔵
- 9 菱田春草《伏姫(常磐津)》1900年、当館蔵
- 10 日高理恵子《空との距離XIII》2017年、個人蔵
- 11 岡村桂三郎《龍-降臨17-01》2017年、作家蔵